



医療法人近森会

びろっば 2

Vol.235

発行 ● 2006年1月25日

www.chikamori.com 高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

ハートセンター戦力増強 ■ 新心臓カテーテル検査室フルオープン

画像診断部 (本館1階)



最新機器導入

2005年12月末の新しい心臓カテーテル検査室のオープンに当たり、心臓カテーテルチームを代表して、川井和哉部長に、本年の抱負など寄稿いただいた。



内科循環器科部長 川井和哉

2005年8月からの工事も無事終わり、12月末より新しい心臓カテーテル検査室がフルオープンしました。2室(左図①②)に増室され、血管造影装置は最新式のフラットパネルになるなど、循環器診療における最大の武器であるカテーテル検査室が充実し、喜びと同時に身の引きしまる思いです。

中国四国の第9位でしたが……

2005年、当院は冠動脈造影などのカテーテル検査1515例、カテーテル治療(PCI)568例・662病変を施行し、『手術数でわかるいい病院 全国ランキング2005』では中国四国の第9位にランキングされました。しかし、カテーテル検査・治療の終了が夜中になるなど患者さんやスタッフに迷惑をかけることも多く、1部屋での検査数はもう限界に近づいていました。

著しいカテーテル治療の進歩

また、カテーテル治療(PCI)の進歩



▲浜重副院長を中心に治療戦略検討風景。操作室も広くなり、カテ日にほとんど一日中もっているスタッフにとっても圧迫感がなくなった ※次頁へ続きます。

今年の日曜日の元旦はゆっくりできたが、年末年始はいつもと変わりなく仕事をしていた。

お正月といえば、私にはお屠蘇が欠かせない。お酒に入れる屠蘇散は暮れに漢方の会社の方や薬の間屋さんから、人に分けるほどいただくのが毎年のことだった。ところが去年の暮れは突然その屠蘇散がどこからも届かなかった。あわてて大晦日の夜に、自転車をこいで酒屋さんに飛んで行き、ご主人に屠蘇散を分けていただくという、ちょっとした出来事があった。

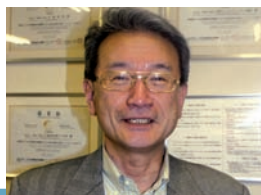
昔はお正月は松の内まで清々しい空気が漂っていて、お年賀や子どもたちの羽子板や凧揚げ、コマ回しがよく見られた。最近では初詣でに行くときも女性の晴れ着を見なくなったし、大晦日に美容院が店を閉めた。

お正月にはまたおせち料理が欠かせなかったのだが、去年ぐらいから、2日に開ける店が多くなり、今年は何と元旦から開店しているスーパーもあり、おせち料理が必要なくなった。

こうした日本特有の正月風景は次第に無くなってきたようであるが、今年になって急にお正月らしさがなくなったように思う。時代が大きく変わったせいだろうか。

お屠蘇

近森 正幸



お正月には、昔、江ノ口村の氏神様であった高知八幡宮にお参りをした。去年までは、家内安全、商売繁盛の「熊手」のお飾りが一つだったが、今年はお飾りを二つ買って、一つは院長室に初めて飾っている。この4月の厳しい診療報酬改定に負けないための、まさに「神頼み」である。

理事長・ちかもり まさゆき

※前頁より続きます。

は著しく、狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患の診療において、今後ますます症例数が増加することが予想されます。

低くなった再狭窄の危険性

PCIとは、冠動脈内にカテーテルを入れて狭くなった血管を拡げる治療法です。カテーテルに付けた風船を、狭くなった部分で膨らませて血管を拡げる『風船療法』や、網目状の金属の筒(ステント)を血管内に埋め込む『ステント留置法』が主流でした。ただ、治療から時間がたつと、再び血管が狭く



なる再狭窄が2~4割で起きるといふ大きな弱点がありました。

しかし、2004年8月、わが国で『薬剤溶出ステント』が承認され、状況は一変しました。これは、内膜ができるのを防ぐ薬剤を塗ったステントで、血管内でゆっくり溶け出し、再狭窄の危険性を低くしたものです。実際、再狭窄の割合は5%以下と著明に減少し、全国的に使用頻度が増えています。

当院でも最近では、『ステント留置法』の約8割に『薬剤溶出ステント』を使用しています。

益々の適応拡大が予想される PCI

再狭窄が予測され、今までならバイパス手術を選択していたような患者さんも、身体の負担が少なく入院は3~4日のPCIで治療可能となり、今後ますます適応が拡大してくるものと思われれます。

今回の増室・最新機器の導入後、時間的にも空間的にも余裕ができ、患者さんがより快適に検査・治療を受けられるようになりました。スタッフの負担も、少しは減らすことができたのではないのでしょうか。

これからも、みんなで協力しながら、心臓カテーテルチームの更なるレベルアップを目指したいと思います。また、地域医療支援病院として、不整脈治療や末梢血管治療など新しいことにも挑戦していきたいと考えています。

(かわい かずや)



▲研修棟別館東隣に完成した医局研修棟。外観は爽やかな青空のイメージで

●平成18年1月10日医局研修棟完成。周辺整備としては、1月16日完成しました。位置は管理棟別館東隣で、新館整形外科元処置室の北側になります。通路として元整形外科処置室を北に出る橋を渡ると医局研修棟に接続します。

医局研修棟は、4階建て延べ床面積312.43㎡。1階整形外科医局(46.69㎡)、2階内科医局(61.15㎡)、3階(61.15㎡)4階(55.90㎡)は10人から30人程度の小会議や研修が可能な会議室です。

整形外科医局(カンファレンスルーム)は17.4㎡から46.69㎡と2.6倍の広さに、また机も配置することが出来スペース設備面も整備されました。

また、整形外科外来までの動線も短縮され診察室に直接入ることが出来ます。2階内科医局には管理棟4階の第2



所感 雑感

日々臨床をしていると、自分自身も含めて「どうしてもこのように感じたり考えたりしてしまうのだろう。どうしてもこのようにしか行動できないのだろう」と考えさせられることも多く、また、抱えている問題も医療の枠を越えているのではないかとと思われることもあります。持って生まれた性格、育った環境、人間関係、受けた教育等、人それぞれ違うため、考え方・感じ方も人それぞれです。

日本人全体としての考え方は欧米化しつつあり、論理的であることが善であり、合理化・グローバル化していくことが全て良いことであるかのような風潮があるように思います。

その一方で大事なものが失われつつあるのではないのでしょうか。未来を担う子供達への教育も含めて考えた時、一体何が大事なのか、何が失われつつあるのか等考えていくことは必要だと思います。

そんな折、『日本人が知らない日本人の遺産』『国家の品格』『生き方』等の本を読んで考え、共感させられることがありました。それらに共通しているのは、自然を愛し、日本古来からある「もののあはれ」等を感じる感性や情緒を育む必要性であり、武士道精神や仏教等の生きる規範の重要性であるように思います。

私自身もこれらの考えがまだ充分理解できていないわけではありませんが、じっくり考えていきたいと思っています。(第二分院 精神科科長 尾花 智くさとし)

医局研修棟完成

▼必要に応じて間仕切りのできる4階会議室



総合医局からの移動になります。机配置は対面式で16名の収容が可能となります。設備環境として院内LANやインターネット回線、コピー機1台(内科医局)を設置、インターネットによる文献検索も可能となりました。なお、医局



研修棟の出入りはテンキー操作となります。また、会議研修室の予約は総務課までお願いします。

(総務部長 松木秀樹)

資格をとってガンバッテます!

呼吸療法認定士

『呼吸療法認定士』とは、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会（3学会）が認定する資格です。1996年に認定制度が始まり、2005年11月20日に第10回認定試験が行われました。今回過去最高人数が受験し、全国で約1800名が合格しました（合格率59%）。近森病院は救急病院であるため呼吸不全症例も多く、人工呼吸器を装着された方や酸素療法が行われている方をよく目にします。

患者の皆さまにとって最善の関わりを目指すためには、呼吸ケアの基本を各スタッフが実践することが重要と思います。呼吸ケアのエキスパートを目指す上でまずは資格取得を短期目標としましたが、今後病棟や職種を越えた連携を図り、より良い呼吸療法の実践に向け働きかけていきたいと考えています。

（理学療法科科長補佐 前田秀博）



▲第10回認定試験で合格された呼吸療法認定士の皆さん。左から、公文薫看護師、森崎千春看護師、生野達也理学療法士、橋本将幸臨床工学技士、前田秀博理学療法士（筆者）、杉本知荷子看護師、安田幸美看護師、塩田直隆理学療法士、高芝潤理学療法士

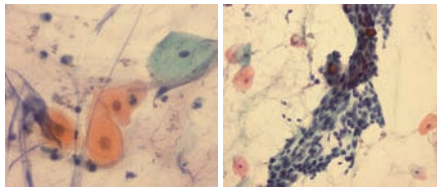
細胞検査士



▼就職して丸7年、中堅検査技師として張り切る橘知佐さん。3年前からは病理検査を担当し、このたび細胞検査士の資格を取った!

「細胞」は生物を分解した最小の単位で、人間の身体は約60兆個の細胞でできている、というのはよく知られた話である。

日本臨床細胞学会が与える細胞診断の専門資格「細胞検査士」の仕事は、この細胞が正常に働くのを邪魔するガン細胞を見つけることで、橘知佐さんがこのたびこの資格を手にした。今村初子技師長は、「橘さんはずっと検尿担当だったけど、細胞が好きで資格を取りたいと目標を持ち志高くやってきた結果がこうして出た。他の分野にも好影響を及ぼすのでは!」とチーム全体のパワーアップを期待する。



▲例えばこれは痰の良性・悪性細胞、毎日こんな細胞を追っかけるのが橘さんの大事な仕事だ

院外エッセイ

裁判員制度が **平成21年** 始まります! 【その2】

高知地方検察庁統括捜査官 中村 勲



●選挙人名簿をもとに作られた候補者名簿から、くじで選ばれた候補者が裁判所へ集まり、その中の6人が裁判員になって、裁判に参加する裁判員制度について前号の続きです。

2週間も3週間もかかったら

どうする。そんなに休めんで?

裁判員がかかわる前に、裁判官・検察官・弁護士が事件の問題点を整理し、皆様に参加していただく肝心の裁判は、ふつうは数日、どんなに長くても1週間か10日で終わるようにいたします。

旅費や日当は出るのかえ?

まだ具体的な額は決まっておませんが、必要なだけの旅費や一定の日当は必ず出ます。

法律のことはぜんぜん知らんぜよ!

裁判の場での、今までのテレビでも

やっていたような特別な用語は使いません。誰にでも理解してもらえる言葉等で、真実をさがします。

法律的なことは裁判官にまかせて、今のあなたの目で見、感じ取って、考えを言ってもらいたいことがだいじなんです。

トラブルに巻き込まれることはないろうね?

裁判員の名前や住所は表に出ません。また、裁判員やその親族を脅しただけで処罰される新しい法律ができました。そして、危害が加えられるおそれがあり、裁判員の関与が難しい事件は、例外的に裁判官だけで裁判をする場合もあるのです。

※院内に置かせていただいている薄水色の冊子も見てください。

平穏な社会を維持するために

皆様の参加を求める制度

以上前号今回と2回にわたって裁判員制度の説明をさせていただきました。実施まで**わずか3年余り**となり、高知地方検察庁では今後ともいろいろな面で広報活動を行っていきます。

既に、県下各自治体職員の方々に対する説明会を順次行っておりますが、皆様の職場や地域の集まりなどでもご説明させていただいたら幸いです。説明会に関するお問い合わせは、088-872-9192（企画調査課）まで。

感謝。高知コーラス合笑団



昨年12月10日、恒例の近森会クリスマスコンサートが開催されました。約80名あまりの患者さんが入院生活の合間にクリスマス気分を味わうことができました。高知コーラス合笑団の皆様には、毎年いろいろな工夫を取り入れ楽しませていただいておりますが、今年は煌びやかな手作り楽器を手に持っていっそう華やかな雰囲気…。患者さんが終盤のよさこい節では手拍子添えて大きな声で、しかも涙を流しながら歌うという感動場面もあり、たいへん盛り上がりました。(新館3階東棟看護部長 川久保和子)

異動

介護老人保健施設
いごっばち

北岡一恵

昨年の12月16日から「いごっばち」配属となり、まだ解らないことだらけのなかで勤務しています。前部署の訪問看護ステーションでは利用者の皆さまのご自宅を訪問してケアを実施していましたが、週に1~2回の訪問で1時間程度と短時間のかかわりでした。

いごっばちの療養室では24時間、通所リハビリでは6時間と、利用者の皆さまと長時間にわたり接することができます。看護師としての視野を広げることができ、訪問看護では得られなかったケア実践を日々体験させていただいております。何も解らずただバタバタする毎日のなかで、利用者の皆さまの笑顔を見ることと、ご家族の愛情の深さを感じる事が自分自身へのエールとなっております。

宮本寛施設長をはじめスタッフの皆に支えてもらいながら、いごっばちの職員として成長していきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。



北岡一恵さん

訪問看護ステーションちかもり

山本詩帆

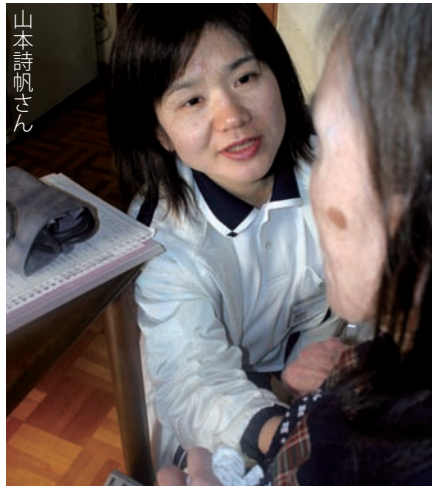
居宅介護支援事業所(ケアマネージャー) → 地域医療連携室 → 内科外来

を経て数年ぶりに訪問看護ステーションに戻ってきました。

訪問看護の利用者の中には、先日まで外来で接していた患者さんや家族もおり、自宅では病院内とは全く違った一面をみるすることができます。それぞれの部署での経験を通し、以前とは違った新鮮な気持ちで訪問看護を見つめなおしているところです。

それぞれ違った看護職の立場で院内外の様々な職種とスタッフと接することで、いかにたくさんのスタッフがひとりの患者さんや家族をとりまいているか、その連携が大切であるかをあらためて実感することができました。

4月からは介護報酬の改定もあり厳しい試練が待っています。責任の重い立場で不安もありますが、院内外のスタッフと協力し、患者さんや家族にとってよりよい看護を提供していきたいと思っています。



山本詩帆さん

ハッスル研修医・第9回

「出勤途中に見かけた美しい路傍の花たち」という題名を先日思いつき、気にはかけていたのですが、季節柄、路傍の花は咲いていません。もちろん私の小話にも。いやいや、そんなうまいことを言っている場合ではありません。私という人間をみなさんに知ってもらわねば!

私は先年まで医学部の学生でした。国家試験や、卒業試験に追われる毎日が嫌になり、友人に日本銀行券を借りて、鳥取に逃避行しました。目的はいわずもがな。砂丘を見、ラクダに乗ることです。鳥取駅から砂丘まで10km弱の道のりをただひたすら歩きました。途中何度も道に迷い、まさに砂漠をいく旅人のごとく、砂丘を横断しました。

しかし、なんたることか! 私は水を携帯するというのを怠っていました。電波の入らない電話は携帯していたというのに! 10月の太陽が照りつけ、喉は渇き、足は半分砂に埋もれ、私はもうこれは駄目だということまで追い詰められてしまいました。そのときです。100mほど先に観光客を乗せたラクダが見えました。わたしは助けを求めて必死で手を振りま

恒例職員旅行

●恒例の職員旅行・全12コースのうち、オーストラリアへは1班25人(05.12.11~16)2班21人(12.19~24)が参加し、親睦を図り英気を養ってまいりました!



シドニーのチャイナタウンで食べて呑んで「う〜ん満足!」。ほろ酔い気分の私たち



シドニーのミセス・マツ
コリーズポイントで
ゴールドコースト散策中
不思議なおブジェに出会い



手を振る
ラクダ

研修医
西本陽央

した。すると、観光客はなにを思ったのか笑顔で手を振りかえしてきたのです。そしてラクダはそのまま踵を返し、蜃気楼のなかに消えていきました。私は教訓を得ました。①鳥取砂丘といえども、命を落とすこともありえる。何事にも万全の体制で臨まなければならない。②他人の苦しみを理解するにはそれ相応の想像力が必要である。

その後どうやって生還したのかはまた機会があればお話しします。とにかく、私は無事卒業試験、国家試験をパスし、今こうして働いています。そして、あの時の教訓はいまでも忘れずにいます。

ちなみにナポレオンのエジプト遠征の際に救急車ならぬ、救急ラクダが活躍したという事実は、この話とはとくに関係ありません。

第61回 救急医療症例検討会のご報告 再認識した既往歴、内服薬の確認の重要性

近森病院形成外科部長 赤松 順

今回は形成外科担当で顔面骨骨折をテーマに根岸正敏先生の司会のもと、「交通事故で下顎骨開放性骨折を認めた一例」「顔面多発骨折受傷後二日後に咽頭浮腫による呼吸不全を来した一例」の救急活動報告があり、それぞれの治療経過について当院形成外科の杉田医師より解説がありました。顔面外傷、顔面骨骨折時における呼吸困難の際、CT撮影等で仰臥位となった時、気道確保能力の破綻、限界点の突破により、急速に呼吸困難が進行し窒息する危険があり、体位変換時の気道閉塞に対する注意が喚起されました。

また、最近は心カテの進歩により、抗凝固療法中の患者さんが外傷を受傷する機会、危険性が増加し、出血傾向による血腫



形成、気道閉塞の悪化など、既往歴、内服薬の確認の重要性も再認識されました。

その後私もより「顔面外傷」の手術治療例を含めた概説と、高知赤十字病院の西山謹吾先生より「病院前の脳梗塞の見方」「救急救命士の薬剤投与について」の講義がありました。

約2時間にわたって、有意義な検討会であったと思います。(あかまつ じゅん)

献血ご協力をお願い

バレンタイン献血

日時 2月14日(火)
時間 11:30~16:30
場所 近森病院新館玄関前

風邪薬を飲んでいたり、体調の悪い方は献血ができませんので、健康には十分ご注意ください。一人でも多くのおみなさんの貴重な血液をご提供下さいますようお願いいたします。

ドクター・アイ

音楽と医療

リハビリテーション科 三石 敬之



医療従事者に音楽好きが多いことは恐らく間違いないことだと思う。他聞にもれず私自身も、楽器演奏(トロンボーン、ギターなど)は今でもするし、昔は作曲から編曲まで何でもしていた。病院内には嘘のように楽器演奏経験者がいて、アマチュアオーケストラなどにいくと必ず医療従事者がゴロゴロしている。ある有名な作曲家の本職は医師であったという事実もある。



医師に文筆家が多いことは、これもまた事実で、この理由は理解できる。恐らく、医療が人生と向き合う仕事であるからであろう。頭の中が哲学的になるのは不思議ではない。

音楽はどうであろうか。私は以前から、なぜ医療職に音楽好きが多いのか不思議に思っている。一つヒントになると思われるものがある。音楽の要素として重要な、「他者と同じ空間を共有する」「感情に触れる」である。音楽は原則的に演奏者と聴衆があって成り立つものである。演奏者は一人もしくは多人数で、聴衆に対して演奏という手段を用いて何かを語りかける。その時、演奏者は自身の感情の変化、他の演奏者や聴衆などと共有感を得る。聴衆は、演奏に対して感情の変化、共有感を得る。それは、人それぞれの背景によって様々なものである。この、様々に変化する感情、様々な共有感は人生そのものであり、また、医療の中で大事にされなければならない部分であると思う。患者さんとの関わり、スタッフ間の関係、まさに共有と感情である。ここに医療と音楽とのつながりがあるのだろうか。

リレーエッセイ

思い起こせばかれこれ20年ほど前、当時捻挫でかかっていた整形外科医から「この親指の変形はすごい!」「アメリカ人に多いです」と指摘を受けたのが、外反母趾との出会いでした。小学校低学年の私は、その聞き慣れない名前と「アメリカ人に多い」という言葉に「きっと私にはアメリカ人の血が混ざっているんだ」と勝手に胸膨らませていたことでした。

痛みへの対処と、これ以上の変形予防に、指間に装具を挟んだり、鼻緒の付いたサンダルを履いたりもしていたのですが、痛みが軽減するとそれはもう「なかったこと」となり、おしゃれ靴を履いたり、適切な治療に結びつくことのないまま今に至ってしまいました。

女性の大敵! 外反母趾



訪問看護ステーション
ラポールちかもり 藤近 利早

いよいよ痛みにも限界がやってきた頃、それでもなお受診を躊躇していた私の背中を職場のスタッフが力強く押してくれ、多大なる迷惑をかけることは重々承知のうえ、治療に専念させてもらう決意をしました。

そして無事手術を終え、真っ直ぐ

になった親指に満足しながら今はリハビリに通い、再発しないよう靴選びにも慎重になっています。外反母趾が治癒した喜びはもちろんのこと、今回初めての入院治療で、私は貴重な患者体験をし、「あんな看護をしたいな」「私には出来ているかな?」と自分を振り返る良い機会にもなりました。一見簡単そうに見える松葉杖使用もとても苦労したし、改めて健康の大切さ・ありがたさを実感することができました。特に女性に多い外反母趾。私の職場の周りにも既に外反母趾者や予備軍がたくさんいて、「足の会」なるものを発足し、気が向いた時集まって「足」について語り合ったりしています(笑)。足は第二の心臓。いつまでも元気に歩けるよう、大事にしていきたいものです。

軽やかに！ 「文化」の配達人

月水金の夕方、新刊本をどっさり抱えて院内あちこちに出没する。すぐに間に合うフットワークの軽さはやっぱりス

ポーツで鍛えた足腰とガッツが関係あったみたい。中学高校大学と野球を続け、卒業後はすぐ金高堂に入社し、それから同僚に誘われて始めた登山を、「金高堂登山倶楽部」を作るほど気に入って、以来ずっと続けている。

高知市鴨場で「40数年前、ジェームス・ディーンと同じ2月8日に生まれた」のがじつは密かな自慢(笑)だそうだが、高校時代までは黙々とただ白球を追うだけ！のような、どちらかという物静かな少年だったらしい。

ご本人は「いまのようにハジケタのは大学時代に関西で、やっぱりあのお笑いの乗りを経験したから……」といたいらしいが、入社以来すでに20年、ずっと好きな本を周りにオススメして暮らしているのだから、そういう自信がご本人を明るく、いかにも楽しげに見せているのではないだろうか。

大学時代、当時2万円以上かかった龍馬全集を「少ない小遣いを叩いて買った」のがいまでも誇りだし、全集を熱心に読む！というよりも、ただそばに置いておくだけで何だか安心するというこの心の動きが、やっぱりさすがに外商部一筋の課長の迫力といえるのではないだろうか。

歴史書が好きで読みあさり、ひとしきり読めば納得して新しい分野に移るといって岩上課長流の本の読み方があり、これをひとさまに押し付けるというのではないけれど、できるだけ近くに本を置いて！と願う「文化配達人」という自負もやり甲斐も感じておられるようだ。

なにごとでも始めようとすれば数冊程度は本で下調べをしてから動き出すというのが、これまた岩上流の真^{まこと}当^{とう}な行動の起こし方ということになる。

そもそも大学を卒業してすぐ金高堂書

店に入社試験を受けたのは、「本に囲まれて勉強が出来るんじゃないか!？」と考えたことだった。という、頭でっかちのガリ勉に思われるかも知れないが、もちろん文武両道で、外遊びも大好きだった。

入社後、いきなり配属になったのが外商部。つまり、分厚い専門書とか事典とか全集ものとか、店の棚に並べていても売れないような、内容も重量も重たい本を、個別に学校や施設に紹介する仕事である。だから、自分がまず下調べしてからでないとおススメはできないから、岩上さんが望んだ通り、「どっさり勉強の出来る部署」に配属されたことになる。

仕事が面白いし、社員が皆仲良しで、ついつい帰宅時間が遅いのが続いていたころ、いまは8歳と4歳になった子どもが、まだ一人だけで3歳だったころ、日曜日に朝寝していたら「あっ、きょうはパパがおる!」と驚かれてしまい、以来深く反省し、そこそこの時間に切り上げるように気をつけているようだ。

とはいえ、趣味の登山では県外の出版社の方々をお誘いして登ったり、近森会某部署の美人スタッフも定期的に参加するなど、「仕事を抜きに、真剣に遊べる付き合いが出来るのがとっても嬉しい」と、おっしゃりつつ、どこまでも仕事中心の顔が覗いている。本が売れなくなるとか活字離れだとかいわれるが、少なくとも

▼趣味は「とりあえず登山で、やっぱり読書も……、というのではちょっと普通っぽいですかねえ!？」とニコニコ



▼入社したときに同僚に誘われて始めた登山、すぐ金高堂登山倶楽部を作るほど気に入ってしまって……。後方には北アルプス縦走の中心・槍ヶ岳の雄姿



もこの近森会に関しては、相変わらず大口の注文も多いようだし、「どの部署にも一冊からでも参りますよ!」というのが、岩上課長の「売り!」でもあるそうだから、皆さん、今後ともどっさり本に親しみ、お勉強をガンバリましょ!!

わたしの趣味

第二分院・宮内美紀子総看護師長の

しゅう
刺 繍

クロスステッチ

クロスステッチは布に××を刺繍して絵を描くように空間を埋めてゆく手芸です。多くの女性によって

残されたクラシックな図案も好きですが、時には気に入った絵をスケッチして、自分で図案を作って楽しんでます。刺繍は単純な作業の繰り返しなのですが、無心に刺していると心が浄化されて柔らかくなっていくようで、段々と絵が浮かび上がって来ると嬉しくて



▼チェコ職員旅行記念に同行の仲間を縫い込みました



結婚式のウエルカムボード刺繍

ワクワクします。

先日、結婚式のウエルカムボードを刺繍してプレゼントしたら素敵だと褒められてちょっと気を良くしています。針仕事は、手毬をかがる祖母の手元や、私の服にアップリケをしてくれる若やかな母の横顔に繋がり、私を少し優しい気持ちにしてくれます。(宮内美紀子)

シリーズ●クリニック探訪14

24年4月2日、奈半利町生まれ。趣味はゴルフと音楽(ジャズ)。



診療科目 ● 内科、循環器科、胃腸科、呼吸器科
診療時間 ● 午前 8:30~12:30 午後 2:00~5:30
休診日 ● 日曜、祝日

循環器を中心に内科一般の診療を行なっています。往診や在宅医療も行なっていますので、「かかりつけ医」として気軽にご相談下さい。



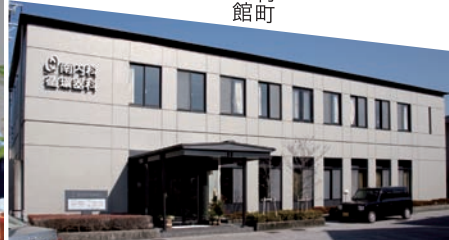
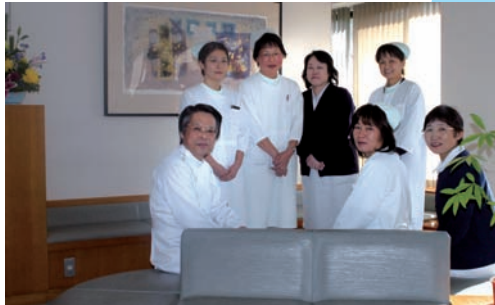
南内科循環器科

奈半利の町なかへ入ってすぐの国道の北側

(安芸郡奈半利町乙 1831) tel. 0887-38-2020



▲シンボルマークは静脈から心臓を通して動脈へと流れる血液の循環をイメージ。絶えず血液が流れることを願い、「生きている証」を表現しています。カラーリングは心とむすチユラルグリーンとしました。



ニューフェイス

①所属②出身地③最終出身校④家族や趣味のこと、自己アピールなど



ちかもり としみち
 ①企画情報室②高知市③名古屋学院大学④名古屋に13年間暮らしていたので、名産の食べ物や観光場所に詳しいです。スポーツは上達しないゴルフとタイムの伸びないジョギングをしています。

人の動き 敬称略

■人事発令

◆1月1日付、池淵正彦・心臓血管外科科長。

■人事異動

●看護部の異動

◆12月16日付、北岡一恵・訪問看護ステーションちかもり所長→老健いごっばち看護部長。森美香・一般外来主任→内科外来主任。山本詩帆・内科外来主任→訪問看護ステーションちかもり主任。永野万理香・ER→老健いごっばち

12月の退職者 敬称略

- ◆12日付、日向智美・5西看護師。
- ◆15日付、大崎文・内科外来看護師、川崎優子・ICU 保健師、山田優子・老健いごっばち看護師、細川学・リハ病院管理栄養士、岩谷聡・本院管理栄養士。
- ◆31日付、山本満寿子・老健いごっばち施設長、久原雪絵・ICU 看護師、山本麻弥・リハ3西看護師、吉村弥生・2-4看護師、北川紀子・老健いごっばち看護師、近澤久美子・本院理学療法士、西村佳美・リハ病院ソーシャルワーカー。

おめでとう

●ご結婚

◆2005年12月8日 近藤美緒さん(老健いごっばち介護福祉士)が、川田弘幸さんと。

●お誕生

◆2005年12月12日、岡原真さん(6西看護師)に、長男・蓮(れん)ちゃん。

- ◆2005年12月13日、松本久美子さん(CCU看護師)に、長女・有純(あずみ)ちゃん。
- ◆2005年12月19日、近藤智子さん(HCU看護師)に、次女・沙耶(さや)ちゃん。

12月の診療数	近森会 外来患者数	19,281人	企画情報室
	近森会新入院患者数	813人	
	近森会 退院患者数	898人	
	地域医療支援病院紹介率	92.18%	
	近森病院平均在院日数	14.11日	
	近森会 平均在院日数	22.24日	
	近森病院救急車搬入件数	457件	
	うち入院件数	240件	
	手術件数(手術室での)	272件	
	うち全身麻酔件数	137件	

いごっばち クリスマス ピアノコンサート

70余名の利用者、ご家族の皆さまにも参加戴きました



プロ級の腕前、名ピアニストは四国管財の石黒さん



いごっばちスタッフは前座で雰囲気盛り上げました

編集室通信

▼職員旅行もいよいよ終盤に近づいてきた。今期は海外国内あわせて20班、約600名の職員が参加した。私も入社以来殆ど欠かさず参加しているが、数年前から、一生のうちに一度は行ってみたいと思う所が3カ所あった。到底自分では行けるとも思っていない所ばかりであったが、翌年のコースに含まれており最初の希望は叶った。今回はモンサンミッシェルでその最後が叶うが、人の欲望はやはり限りがないのか、来年度も知らない街に行きたいと思う。(裕)

2月の歳時記

梅 (バラ科)

文と画・6階東病棟看護師 小松倫子



中国原産の落葉高木。早春、葉に先立って香り高い白色(紅色)の花を開く。実は酸っぱく梅干用、薬用、観賞用としても植えられる。花は一輪。花ことばは「忠実、気品」。

※万葉の時代から、春告げ草や香栄草と呼ばれ、その高貴な香りや凛として清楚な花は日本人の感性によく合い、長らく愛されてきた。(編集室)

図書室便り

(2005年12月受入分)

- ・完全図解 からだのしくみ全書 病氣編 / 高橋健一
- ・平成17年版 看護白書 看護者に求められる能力とは / (社)日本看護協会 (編集)
- ・第36回 日本看護学会論文集 看護総合・成人看護 (監) / (社)日本看護協会 (編集)
- ・最新事例に学ぶ医療訴訟対策ーリスク回避に向けてー / 深谷翼
- ・体の中からきれいになるための健康ダイエット Q&A / 小西すず
- ・おいしく楽しくダイエットいきいき栄養学ー / 南部征喜 (監修)、小西すず (著) 《別冊・増刊号》
- ・手術別冊 最新アッペ・ヘモ・ヘルニア・下肢パリックスの手術 改訂第2版 / 名川弘一 (他編集)
- ・別冊 医学のあゆみ 肥満症・メタボリックシンドロームー最新診療コンセンサスー / 松澤佑次 (編集)